

(様式 17)

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏 名	湯 澤 明 夏
	主査	准教授	矢 部 一 郎
審査担当者	副査	教授	田 中 真 樹
	副査	教授	吉 岡 充 弘
	副査	教授	寶 金 清 博

### 学 位 論 文 題 名

髄膜性腫瘍の分子遺伝学的マーカーと臨床病理学的因子との相関に関する研究  
(Studies of molecular and genetic markers with clinicopathological features  
of meningeal tumors)

次世代シーケンサーの普及により、様々な腫瘍で責任遺伝子の同定が行われ、今年改訂予定の中枢神経系腫瘍 WHO 分類では神経膠腫において分子遺伝学的マーカーが組織型分類に取り入れられる予定である。申請者は、髄膜性腫瘍の中で鑑別が問題となる髄膜腫、髄膜発生孤在性線維性腫瘍/血管周皮腫 (SFT/HPC) の分子遺伝学的マーカーと臨床病理学的因子との関連について検討した。髄膜腫では次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析結果に基づき、髄膜腫を 3 つの genotype に分類し、腫瘍発生部位、腫瘍の大きさ、MRI 所見、組織型、予後との相関を示した。髄膜発生 SFT/HPC では RT-PCR 法で融合遺伝子を検出し、腫瘍発生部位や組織型との関連を示した。

審査にあたり、副査の田中教授から、髄膜腫の分類の妥当性や、今後の遺伝子解析研究の展開に関して質問があった。副査の吉岡教授からは、髄膜腫の検討で除外された症例の詳細や NOC type の再分類について質問があった。副査の寶金教授からは、髄膜腫の genotype と腫瘍発生部位の関連性の機序や、SFT/HPC の分子標的治療などに関して質問があった。主査の矢部准教授からは、次世代シーケンサー解析の結果の検証の有無、その他の腫瘍における融合遺伝子の状況や治療への応用、融合遺伝子における in-frame の重要性などについて質問があった。申請者はこれらの質問に対して、自らの研究結果や先行研究の研究成果に基づいて概ね妥当な回答を行った。

この論文は髄膜性腫瘍の遺伝子変化と臨床所見、組織学的所見との関連性を詳細に検討しており、今後の脳腫瘍病理診断と治療の発展に寄与するものと期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。